

(参考)これまでの主要事業一覧

		名 称	施 工 期 間	延 長	内 訳	
交 通 基 盤	1	八戸港整備事業	八戸大橋	昭和47年～55年度 昭和51年 9月：一部開通 昭和55年10月：全面開通	橋長 1,323.7m 全巾 21.5m	うち主径間橋梁部 367.0m うち側径間橋梁部 956.7m
			八太郎大橋	昭和48年～55年度 昭和52年10月：一部開通 昭和55年10月：全面開通	橋長 421.4m 全巾 21.5m	-
	2	みちのく有料道路	昭和50年～昭和56年	20.5km	道路延長 1万5,263m 隧道延長 4,350m 橋梁延長 887m (海底) 23.29km	
	3	青函トンネル・津軽海峡線	昭和21年 4月 地質調査開始 昭和46年 9月 本工事着手 昭和60年 3月 本坑貫通 昭和63年 3月 津軽海峡線開業	トンネル延長 53.85km	(海底) 23.30km (陸上) 30.55km (始点) 青森県東津軽郡今別町浜名 (終点) 北海道上磯郡知内町湯の里	
	4	東北縦貫自動車道	弘前線：昭和43年 4月 整備計画決定 昭和49年12月 工事着工 昭和61年 7月 全線開通 八戸線：昭和48年10月 整備計画決定 昭和56年 9月 工事着工 平成元年 9月 安代～八戸間開通	-	弘前線 697.1km 八戸線(計画区間含む) 167.0km 八戸線供用部分(安代～八戸間) 68.1km	
	5	青森港改修事業 (青森ベイブリッジ)	昭和57年度 工事着手 平成 4年 7月 暫定2車線(山側) 平成 6年 7月 全面供用開始  路線名：臨港道路 2 号線	1,993m	うち橋梁部 1,219m 中央径間 498m 側径間 721m	
	6	一般国道394号道路改築事業 (城ヶ倉大橋)	昭和49年度～平成7年度 平成 7年10月27日開通	3,680m (うち 城ヶ倉大橋 360m)	幅員 9.5m 両側に2mの歩道を設置	
7	八戸港河原木1号ふ頭(ポ ートアイランド)整備事業  (八戸シーガルブリッジ)	昭和63年度～平成9年度 (第1期計画分)  平成3年度～平成9年度	約34ha  265.5m	ふ頭用地 約12ha 港湾関連用地 約18ha 緑地 約 3ha 道路用地 約 1ha  橋長 265.5m 主径間部 165.8m 側径間部 99.7m		

	名 称	工 期	建 設 概 要
建 設	1 青森県総合運動公園	昭和41年 6月 陸上競技場、陸上競技補助競技場、水泳場竣工 昭和42年 9月 野球場、飛び込みプール竣工 昭和52年 7月 庭球場竣工(同年開催のあすなろ国体の主会場) 昭和53年 7月 サッカー場竣工 昭和55年 9月 自由広場竣工 平成元年 5月 洋弓場竣工	
	2 青森県営浅虫水族館	昭和56年10月 着工 昭和58年 7月 オープン	水族館棟延床面積 4,769.53㎡ ショーホール棟延床面積 1,737.60㎡ そ の 他 615.64㎡ 合 計 7,122.77㎡
	3 青森県営スケート場	昭和58年 3月 着工 昭和60年10月 竣工	敷地面積 43.500㎡ 建築面積 11,884.208㎡
	4 青森県観光物産館(アスパム)	昭和59年度 建設工事発注、着工 昭和60年度 工事完成 昭和61年度 オープン	敷地面積 約1万4,000㎡ 建築面積 約 4,000㎡ 延床面積 約1万4,300㎡ 地上15階 塔屋3階
	5 青森県立図書館新館建設	平成 3年 8月 着工 平成 6年 3月 開館	構造規模：鉄筋コンクリート造、地上 4階建 建築面積：3,788.52㎡ 延床面積：9,886.03㎡
	6 県民福祉プラザ	平成 7年 10月 着工 平成 10年 4月 供用開始	敷地面積 約 6,800㎡ 延床面積 約1万2,700㎡ 構 造 鉄骨鉄筋コンクリート造 地上 5階建
	7 青森県立保健大学	平成 9年12月 着工 平成 11年 4月 開学	敷地面積 約 9万200㎡ 延床面積 約2万7,000㎡ 構 造 鉄筋コンクリート造 地上 4階建
	8 青森県武道館	平成9年度 着工 平成12年3月 完成 平成12年5月 開館	敷地面積 22,810㎡ 延床面積 18,221.1㎡ 構 造 鉄骨鉄筋コンクリート造 本館地上2階建 合宿棟地上4階建 遠的弓道場平屋建
	9 アピオあおもり (青森県男女共同参画センター) (青森県子ども家庭支援センター)	平成11年10月 着工 平成13年3月 完成 平成13年6月 開館	敷地面積 4,507.00㎡ 建築面積 2,798.67㎡ 延床面積 5,600.53㎡ 構 造 鉄筋コンクリート造一部鉄骨造 造 地下1階地上3階
	10 青い森アリーナ (新青森県総合運動公園)	平成12年7月 着工 平成14年11月 完成 平成15年1月 開館	新運動公園供用面積 27.9ha 建築面積 12,953㎡ 延床面積 25,450㎡ 構 造 鉄骨鉄筋コンクリート造及び一部鉄骨造、鉄筋コンクリート造 地下1階、地上6階
	11 縄文時遊館	平成12年10月 着工 平成14年11月 完成 平成14年11月 開館	三内まほろばパーク供用面積 20.0ha 建築面積 7,762㎡ 延床面積 7,348㎡ 構 造 鉄筋コンクリート造一部鉄骨造 地上2階
	12 青森県立 三沢航空科学館	平成13年7月 建設・展示業務着工 平成15年3月 建設完了 平成15年5月 展示業務完成 平成15年8月 開館(予定)	敷地面積 11,310.49㎡ 建築面積 10,305.80㎡ 延床面積 10,840.65㎡ 構 造 鉄筋コンクリート造一部鉄骨造 地上3階

		名 称	開催期・会場	統 一 テ ー マ
イ ベ ン ト	1	あすなる国体	冬季大会スケート競技会 昭和52年1月22日～25日(4日間) 冬季大会スキー競技会 昭和52年2月17日～20日(4日間) 夏季大会 昭和52年9月4日～7日(4日間) 秋季大会 昭和52年10月2日～7日(6日間)	テーマ 「あすなる国体」 スローガン 「心ゆたかに、力たくましく」
	2	青函トンネル開通記念博覧会	昭和63年7月9日～9月18日(72日間) 青森市安方地区、アスパム周辺 総入場者数：147万1,186人	「新たな交流と発展 - 北の飛躍を目指して」
	3	第44回自然公園大会	十和田八幡平国立公園十和田地域 (青森県十和田湖町)	(重点目標) 自然とのふれあいの推進 (標語) うみ 安らぎは森の言葉と湖のいろ
	4	第5回アジア冬季競技大会 青森2003	平成15年2月1日～2月8日(8日間) 青森市・八戸市・三沢市・鯉ヶ沢町・ 岩木町・大鰐町	Asian Beat とどけ世界にアジアの響き

(注1)この一覧は、これまで本要覧の主要事業に掲載された事業のうち、交通、建設、イベントの主なものについて取り  
(注2)青森県総合運動公園の建設事業費は、当初の建設費に加えて、建設後の維持・補修のための工事費等も含まれ、

事業費	概要	要
89億3,700万円	<p>八戸港は、青森県の太平洋南部に位置する工業港、商港、漁港の性格を備えた重要港湾である。また、むつ小川原開発の拠点港としての役割、流通港湾としての対北海道、京浜、京阪神地域との交流の増大、内航海運のための施設整備が強く望まれたことから昭和46年から基本計画が策定された。この整備事業の一環として、むつ小川原開発建設資材等の輸送道路としての役割を果たす港湾道路2・2・11号線(白銀商港-館鼻地区漁港-三角地帯-第二工業地帯)の早期建設をはかり、その一環として両大橋が着工された。</p>	
46億300万円		
232億円	津軽地域と南部地域を結ぶ幹線道路は従来国道4号と102号であったが、冬期閉鎖を考えると実質国道4号のみであった。また、昭和41年の土砂崩れにより、国道4号が1ヶ月通行不能となり、早期のバイパス建設が渴望された。このため、青森-天間林-七戸を結ぶ青森県初の有料道路として建設された。	
6,890億円 (うちトンネル) 5,384億円 (うち取付部) 1,506億円	本州と北海道をつなぐ延長53.85kmに及ぶ世紀の大事業として世界の注目を集めた。青函トンネル完成により、青森-函館間の輸送時間が大幅に短縮されたばかりでなく連絡船輸送と比べ気象条件に左右されることがないので安定した輸送を保つ事ができる。 また、近い将来、東北・北海道新幹線が建設されると、北海道、本州、九州を陸続きにし、日本を縦貫する高速鉄道網が形成され、我が国の産業経済の発展に大きく貢献することになる。	
760億円	東北縦貫自動車道は、東京都練馬区を起点として、宇都宮、福島、仙台、盛岡を経由して青森市に至る弘前線(697.1km)と岩手県安代町から分岐し、一戸町、八戸市を経て青森市に至る八戸線(東京-安代は、弘前線と重用)がある。八戸線は現在、安代(J・C・T)から八戸までの68.1kmが供用されている。未整備の八戸-青森間については、八戸市内(14km)、青森市内(16km)が整備計画区間、八戸市-青森市間(69km)が基本計画区間となっている。	
約270億円	青森港はJ R 青森駅を中心にして東西に分かれた形で発展してきた。青森港の貨物は、木材、セメント、石油等の生活関連資材が多く、青森市を中心に津軽一円、秋田県北と広範囲にわたって輸送されていることから、輸送経路である国道4号、7号、280号の交通混雑の要因となっていた。この交通混雑の緩和を目的として、J R 青森駅を跨いで東西の港湾施設間を連絡する臨港道路2号線(青森ベイブリッジ)が建設された。	
90億円 (うち 城ヶ倉大橋 62億円)	国道394号は、津軽地域と南部地域を最短で結ぶ広域幹線道路であり県土東西横断道路として重要な役割を担っている。しかしその中間には八甲田山が位置し、最大の難所城ヶ倉溪谷がある。特に城ヶ倉温泉-沖揚平間の道路状況は、道幅が狭いうえ、急勾配、急カーブの連続であることから交通の難所となっていた。また冬期間の積雪は4mにもなり11月中旬から5月中旬までの6ヶ月間は通行止となり、これにより青森県の広域的な産業、経済、観光などの発展が大きく妨げられてきた。 これらの問題を解消するために新しく城ヶ倉大橋をかけるなどの改築がされた。また当地域は十和田八幡平国立公園の特別地域に指定されており、優れた自然環境の保全にも十分配慮しながら工事は推進された。	
約199億円	当事業は、八戸港における国際化を見越した上での物流需要への対応や物流の近代化、輸送形態の変化への対応、港湾関連業務の近代化への対応等を目標に、昭和48年度に基本計画が策定された。その後一部変更等の手続きを経て昭和63年度より整備が始まり、平成9年度には東北初の人工島として全体計画(約85ha)のうち第1期計画分(34ha)が供用開始している。 また、平成8年3月に指定を受けた輸入促進地域(FAZ)の関連施設も整備されるなど、新たな物流拠点として地域経済へ大きく貢献することになる。	
約89億円	八戸シーガルブリッジは、ポートアイランドへの連絡橋として平成9年4月に供用開始した。当橋は75°の傾斜角を持つ独立一本柱形式の主塔(H=47m)を有するPC斜張橋で、我が国の道路橋としては初めての構造形式が採用されている。	

事業費	概	要
約110億円(注2)	陸上競技場 トラック：1周400m、直線140m、8コース、フィールド：15,155㎡、観覧席：17,000人 野球場 本塁・センター間120m、両翼91.5m、観覧席：23,000人 屋内プール 25mプール、6コース 庭球場 クレイコート12面、観覧席：5,500人 サッカー場 145m×83m 洋弓場 射場12人立、射程90m、6人立、射程70m	
40億2,400万円	水族館棟 展示水槽：57槽(海水 41、淡水 16) 展示水量：706 t(海洋水槽429 t) 展示生物：400種 10,000点 展示内容：1階 海水ギャラリー 2階 淡水ギャラリー ショープール棟：ショープール 703 t(20m×10m×4m) 展示内容：アシカ・イルカショー	
44億7,400万円	競技施設 スケートリンク スピードリンク 1面 アイスホッケーリンク 1面 フロア期間 テニスコート5面 バドミントンコート4面 観覧席 1階 移動席 ベンチタイプ 690席 椅子席タイプ 280席 2階 固定席 1,058席 合計 2,028席 屋内施設 会議室 採暖室 屋外施設 運動広場 3,900㎡ ・ ジョギングコース 1周 840m ・ 駐車場 350台収容	
53億9,000万円	1F：展示コーナー、販売コーナー 2F：エネルギー・市町村・農林水産コーナー、パノラマ館 3F：企業・青函トンネルコーナー 4F：むつ小川原コーナー 5F：科学技術コーナー 6F：会議室 8F：多目的ホール 10・11F：郷土料理 13F：郷土料理 14F：展望レストラン	
44億6,200万円	1階：サービスエリア(エントランスホール、一般閲覧室、児童閲覧室、参考・郷土室、対面朗読室) 2階：近代文学館エリア・資料収蔵エリア(近代文学館、資料収蔵書庫) 3階：資料収蔵エリア(書庫) 4階：集会活動エリア・管理エリア(講座室、市町村読書振興室等)	
56億8,700万円	1階：エントランスホール、作品展示コーナー 2階：モデルハウスコーナー、福祉機器展示コーナー、ボランティア活動展示コーナー、ライブラリーコーナー、情報提供コーナー、消費生活情報提供コーナー、喫茶コーナー、共用会議室1 3階：多目的室1・2、共用研修室1・2、講師控室1 4階：県民ホール、こどもルーム、大・中・小研修室、多目的室3、講師控室2 5階：県民サロン、共用会議室2、調理実習室	
148億4,300万円	教育研究棟(看護、理学療法、社会福祉の各学科の実習室、教員研究室等) 図書館・管理棟(図書館は、約18万冊の書籍が収容可能、平成10年度は約2万冊を購入) 講堂(約500名収容) 体育館(バスケットボールコート2面の広さ) 多目的グラウンド(300メートルトラック、テニスコートほか)	
129億8,800万円	主競技場：47.6m×47.6m 観覧席：5,000人 補助競技場：419㎡ 柔道場：529㎡(柔道2面) 剣道場：529㎡(剣道2面) 相撲場：常設土俵1面、観客席：480人 近的弓道場：12人立、観客席100人 遠的弓道場：6人立、観客席100人 トレーニング室：210㎡ 会議室：50人収容が3室(1室150人収容での使用可) 合宿所：約100人収容(和室16室)	
37億9,300万円	1階：情報ライブラリー、児童図書室、調理実習室、工作室、和式研修室、プレイルーム 保健指導室(収容数約40人) 2階：イベントホール(収容数約230人)、大研修室(2室各90人収容)、小研修室(3室各27人収容) グループ活動室、ワーキングルーム、交流展示コーナー、講師控室、団体事務室、ボランティアルーム 3階：親子室	
148億0,600万円	<b>青い森アリーナ</b> 【メインアリーナ】 競技フロア64×46m(・バレーボール4面・バスケケットボール3面・テニス3面・バドミントン2面・卓球24面・バドミントン14面) 観客席(最大)5,371席【サブアリーナ】 競技フロア46×32m(・バレーボール3面・バスケケットボール2面・テニス2面・バドミントン1面・卓球12面・バドミントン6面) 研修室 4室【スポーツセンター】 プール25m×8コース 青森県スポーツ科学センター(平成15年度開設に向け準備中) キッズルーム 【合宿所】 宿泊室(145名収容・シングル120室・ツイン28室・トリプル(身障者対応室)3室・和室6室 談話室4箇所 レストラン テニスコート 砂入り人工芝20面、ナイト照明完備、観覧席、クラブハウス <b>アーチェリー場</b>	
39億円	縄文センター 体験工房(有料：縄文縄シット作り、編布(アゴソ)作り、板状土偶作り、アケサ-作り、まが玉作り、ミニ土偶作り、組みひも作りと火起こし) レストラン おみやげ品コーナー	
68億2,000万円	1階：航空ゾーン、科学ゾーン、科学実験工房、特別展示室、マルチメディアAVホール、こどもスクエア、ミュージアムショップ、カフェ、団体休憩室 2階：科学ゾーン、ライブラリー 3階：展望室	

結 果	概 要
成 績 天皇杯（男女総合） 本県優勝 皇后杯（女子総合） 本県準優勝	本第32回大会開催の誘致を始動したのは昭和45年10月、岩手国体直後であった。 栃木県との競願となったが結局、本県が開催申請県に内定した。これに伴い昭和 47年 9月第 32回国民体育大会青森県準備委員会を設立、事務局を県総務部行政特別対策室に設置。昭和 49年 7月、日本体育協会の理事会において正式決定された。 競技において本県は、ボクシング、バレーボール、レスリング、自転車、卓球、軟式野球、相撲、柔道、バドミントンなどで優勝し、天皇杯（男女総合）で優勝、皇后杯（女子総合）で準優勝と輝かしい成績を挙げた。
昭和63年12月1日現在 収入 33億9,600万円 支出 31億7,800万円	本州と北海道を結ぶ青函トンネルが昭和63年 3月13日に開通し、関門トンネルと瀬戸大橋とを合わせ日本の四つの大きな島が陸路でつながった歴史的な意義を記念して「青函トンネル開通記念博覧会（青函博「青森 E X P O ' 88」）」を函館側と同時開催した。
参加者 6,130人 ・常陸宮同妃両殿下 ・環境大臣 ・招待者 ・野外活動隊 ・一般参加者 等	環境省、青森県、(財)国立公園協会、第44回自然公園大会青森県実行委員会の共催により、「自然に親しむ運動」の中心行事として、平成14年7月24日、25日の両日、十和田八幡平国立公園「十和田地域」（青森県十和田湖町）において、常陸宮同妃両殿下の御臨席のもと、県内外から6千人を超える参加者を迎え、第44回自然公園大会を開催した。 大会では、自然環境の保全と適正な利用との調和、人と自然との共生の理念のもと、自然観察や記念植樹、野外活動などを実施しながら、かけがえのない貴重な自然資源を次の世代に引き継いでいくことの大切さを全国に発信した。
参加選手役員数： アジアの29の国と地域から1,016人 日本メダル獲得数： （ ）内県勢 金24個（2） 銀23個（4） 銅20個（1）	本大会は、スポーツ振興に資するとともに、次代を担う青少年に夢と感動を与え、国際時代の中で県民が文化としてのスポーツのすばらしさを享受することにより、県民の国際性、文化性を高めることを目的に、本県で初めて開催された総合的な国際スポーツ大会であり、県内6市町を会場にスキー・スケートなど、6競技51種目の熱戦が繰り広げられた。 日本オリンピック委員会、各競技団体のもと、一線級の日本選手が多数参加したこともあり、期間中の観客数は、延べ93,000人に上った。本県からも11名の選手が出場し、スキー競技で2個の金メダルをはじめ、合わせて7個のメダルを獲得した。 大会運営に参加したボランティアは、延べ約17,000人を数え、一校一県交流事業や地元歓迎事業等によって、各国参加選手等との積極的な交流が行われるなど、県民総参加型の思い出深い大会となった。

まとめたものである。

新青森県総合運動公園へ移管した施設もあることから、他の項目の事業費と単純に比較することはできない。